

廣英文庫

安永甲午山嵐旦

花の妻誰ゆめさう乃喜と呼 燕村
若さの戸乃二日月も 雪店
雉子啼お村乃夕水見へく 宰田

まにけりくく乃はに
いれりちをむらひ

十六

我亦可有也良花乃智影大曾

正朔

鐘よ笑と雞よ笑とくぬの笑 八重

十六

元日也古兒袴に青いあし 樵風

東夷

元朝や嵐乃付め目を抱す 百他

蓬草も海も中守りし有 我男

元日也来る人ふとる青眼 自笑

青帝

鏡院地もめしな来や水音の音 良伴

三元

善水もえ息きや京乃水 月夜
世を饒る松乃麻や年の末 帯川

聖公伊

長く保代年の以や初安草 古御
出入や袖をたぐぬる花乃春 嬰夫

誠自宅

氏汁子のさく

あゆを繪み見る末乃初る 維駒

歳首

古より其猶と八門乃松也 好

維明

去身ハキマシテ炉中ニありてけイノ美 鉄馬

打て撃きと伝きく三ヶ日 子謙

共重天

伏水

めくの日乃ちしやや人女我骸 斑霞

元日乃ち後静にき居る南 御風

元日の心と親乃ち意心所 抱東

こころん

杏凡や年々之と家已う門柳女

元旦

ナニハ

改るたのむ三つ乃ち何の哉 文鶴

地ま乃ちすくは清しと朝の女 有隣

叔氣

福原

香かや初日乃外と細玉もの 沙月

三朝

初まや極ささくしあそこの花 篤羽

復新

兵庫

香地嬉しく居何千のあまも 水翁

三始

色之ぬきんりう射緒や門の松 蝸山

子開く花乃利根や福壽中 可三

持姫よと居並ふとや睦月 芦舟

香来山子衣おすて子卯霞 米郎

歳旦

四方の妻山よのそらけしめらふ出る馬圃
年男去きひ供者まきし男し遷ト
能りやた実せてまの青ト総
まのまの餅をたぬ見の境哉牙貫
お首振を供まきし出るや智鳥猪料

雜旦

今やいおてよのたもろく大 雪店
石よにるに視や筆けしめ 幸田

歳暮 坐位混雜

我のころ身もあす行路心 自笑
散らぬまじり多し煤か 也好
年ハ行弁たうる色にみえても 嘯山
ふきくはまはるまはまはるまはる 百地
し年と又まゝごとくは病ぬかす 掉路昌

年より此夜ぬかす世はとやる心 冷立
借徳ハ智慧斗じ方悔日 班彦
画方筆乃水も乾く大三首 所見
たのちかたはる任業や衣配 柳め
餅搦やえて事たへし法法師 舌圃
長尻乃とてとみれば是哉 蠅山

ふりたいたた金取ちるく

妹輝く持又夫乃侍れま子
の三
阿ふいふ子ちかめきさるひ
芦舟
年乃由鬼ら笑きく通ひ道
采郎

年内之春

春あはれ女あはれふり色し年男
文鶴

情拂取れ富貴もや大晦日古々

之春在臍

浪花

花の女休しうこくし年木携
茶裡
妻も為し此あはれや妹乃日
中糸
百ち守年一おと我惜らるる
常川
よまめ足かめ扱はせたり古曆
月溪

市中ノ業々ト云々石以テ成テ岡ナリト云

宗阿跡乃流況を年九ノカ 鉄馬

月を乃蒸土也内也ト云々古音

物妻也月乃おるも内也ト云々良伴

笑いノ年越を例や底乃梅 赤い離

牙取乃皆音ト云々星の空 水乃

との元御階へもむる必きと我則

ホトノ業々ト云々石以テ成テ岡ナリト云

年かのや子宝舟にのりもを子謹

ホトノ業々ト云々石以テ成テ岡ナリト云

鳳凰乃巢を筑く詩云々 為夫

地子おちす朱拾い得るの善 維約

そとくしりし乃妻也紅の裂チホ 雄山
老信乃也夢とつせとばを哉 槿凡
併搦ハ妻と傳入つてくも 雉羽
何らん馬七年と女おん兵 支鳩
土毫へ海之氣乃磔追灘をフシハラ 它谷
翁矢れすま方 的や大嘯 沙月

ホマシ遊者よおく年の多 雅因
一カニ雪もら負ぬうのり 杖楯
よとよもささくた通の岸 遷下
カシタヤル空の會き男を 猪舩
元くもさくた年スリ 牙貴
大あ日子せと妻よ 長巴子 乙総

ぬ子被都る者へし乃物感住
曰方と湯氣にられさ妙きし 赤羽
同る言ぬを乃後ききや年 ぬガ
くの元いさくもきくさ流 汲牛
あくも押け客やうきけり 去尔
海新も年乃関心と成りま 丑二

深鏡のぬこた青や十万家 春里
火を鬼やうくしとくのり 櫻川
此中とにたつぬおや年乃元 存義

考ら妻よぬのこはまへしきさしゆけ

妻とまに老の妻よは方哉 オシ 大魚月

おまのた子 門松の 以着うら 儿董
とかのお老とまのくまのれま 華月

たし

料の戸に何と云ふ後子にまの多五律

○

ハスタル、ハニムル馬の身也如

○

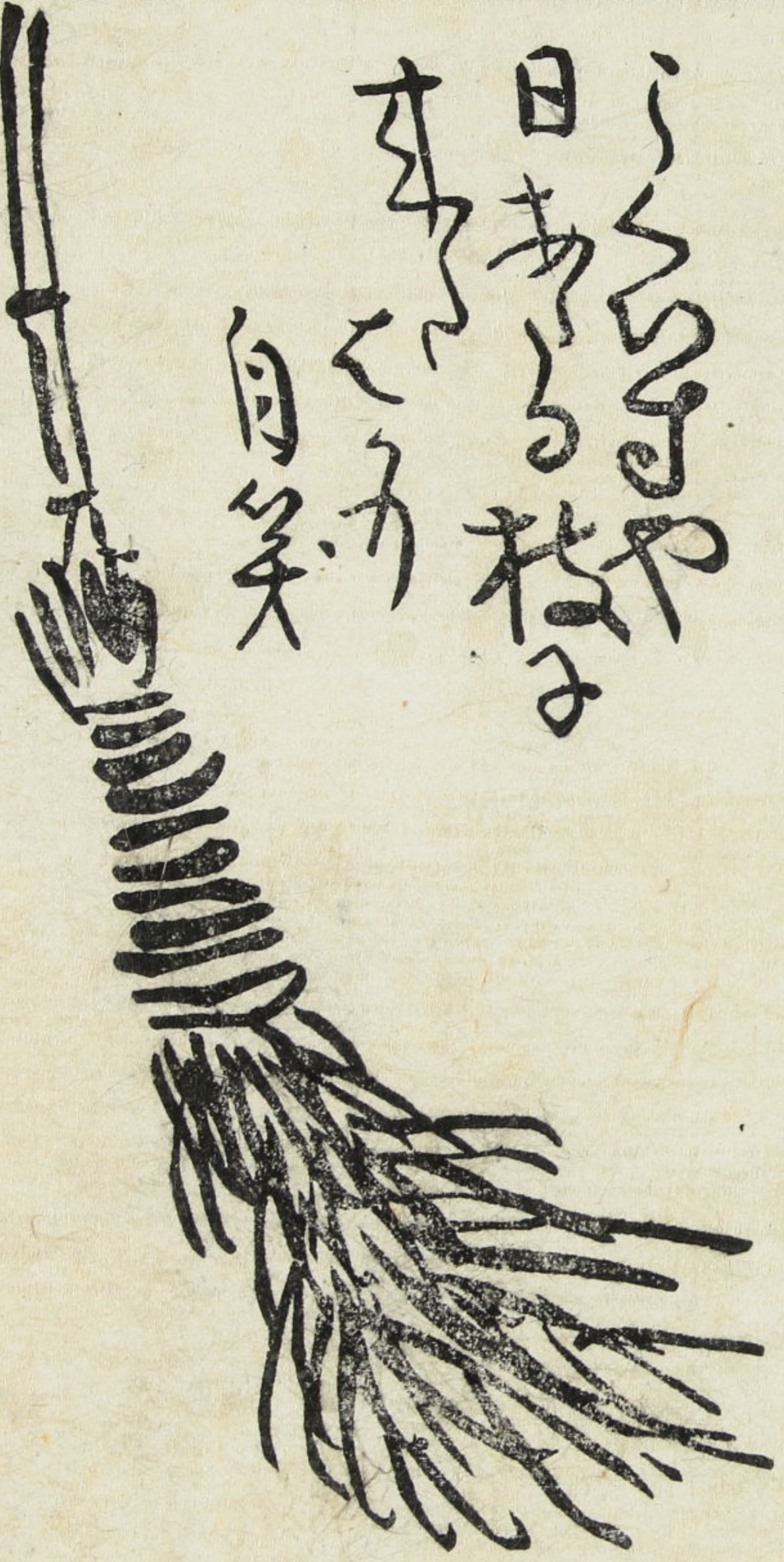
子金花興をさし女守終月える

ハスタル

日ある枝

ハスタル

自笑



首んが死流す
中るはを死に

月溪



心
の
花
と
す
め
り
か



雉子帝也
梅花也
引手



第三

江中
有
夕哉

李燠





落乃きく片海新小丸名女 来面
 くるやあせらぬ日たひ証を 二頁
 きこあ乃きあ息ある白くま 曲室
 比水乃岸ハ流るし柳之影杜見
 さりかた中道あ女入あのお 古郷

敷くたひゆるきり梅の月良他
柳黄にたぐみり夕日哉斗文
夾さ繩よひひ蝶乃けらる侘山
手まかき風さを失ふ柳ル元門
みすのやのりし雪とあまら魚盆

浪花芦陰舎社中

ふす乃江子音ある約瓶教芙蓉花
約合にきりまぬるもあまら勿非
考にみまかけよ水仰外亀友
くすすや我宿をきく二年越鳴鳳
きりやあまらまら乃内家東

窓棗のきつ浦や茶のきき子 東菑
くさきや隣も入る静し 未候
きや振乃降まに日影す 文窓
黄きや一ひきりし暮る空 修加
くさきと雪の消へる岩のく 石臺
きや鳥習よききさき院前 東泉

くさきやふききききと花の甲 瓦仙
きや撫ききと夕料のき 有浦

水の梅ききやあききききき 三
廣ききききききききき 蠅山
あきききききききききき 米郎

田子序くふ家乃庭や梅花 芦舟

品木摘女身くふ口の半 赤羽
河上や雪のまじり山ニワ 南雅

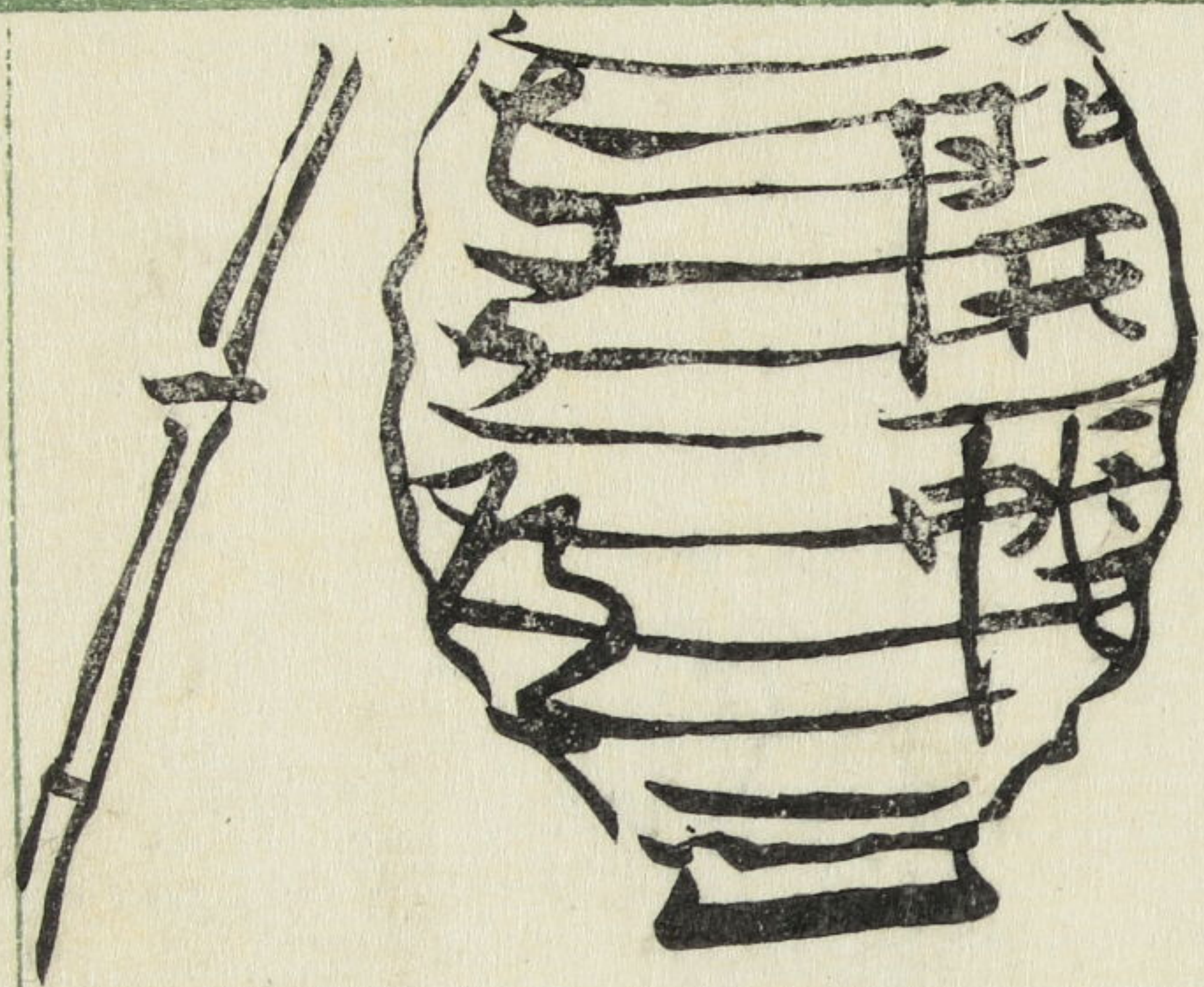
唐棧を私とハきりし子日かナニハ雄山

先くまぐ
枝乃自子

柳

丸
出





玉足あり
 刀足あり
 雑子のあ

路曳



枯芝にいたる足はけり包揚也 素旭



牛の車
 とり
 為甲



妻のあつたし
 さかへお解か

万容

黄良名也
春乃あはれ
啼也 牛視



人日

大石

いふかゝいおのちのむすぶが 士川

年内ニ妻

とくしちに妻やおのちの梅を 枕葉

○

去の日に日かくしおのちの北有隣

吹しと柳へさるる柳まをフシニ鳳五
 様腦乃焼るまをさや朕月ヨコ大活一聲
 さくらんく特西にふるさく小城九甫可
 雉子啼や行生乃不業内フシニ花東

夜子こくと化 台斗
 星乃白や
 んめのそ飛



我といふ
其うか
梅

梅

柳
うさ
キ

但
出
石
馬
圃



入る
舟
と
腫
出
舟
ハ
霞
哉

浪
花
銀
獅



芥子花の葉乃
 さいふたきまゐるハ
 さいふたきまゐるハ
 さいふたきまゐるハ
 さいふたきまゐるハ
 さいふたきまゐるハ



吞猫

香具

梅うやうまのこのあ乃ほ 梅幸
 こいけくち付鳥や梅うま 鯉長
 かろかりし根岸汐まや梅花 慶子
 香組に和木と平木乃里まか ぶあ

斜陽の曾住のしるしの梅 氏於

くさすをふぬ曉もあきし 牛行

かじりてゆく眠るハ柳止其人

おんうらやまのさうや梅前ナニハ田圃

光とくを柳の陰てあ乃友 紹朴

旅中吟

浪花

我玉乃梅とく素是江のそ 万翁

善興

伏水

酔ひもろくのまや梅をも 霞吹

しむよき直後こ入るの年ナニハ世凡

きや直より入る言及利 鉄信

妻あり備えよすそ泊る 俵雨

こころし

おの習指され天相と起出を 大雅堂

浪花ニ柳を中

月やばりし物後多と捨後 生佛

く守のあ又出るささる 亀友

秋よあや物ハ踏しく暮れ 入江

考契

善を修む日と終るあはく 美角

安永甲午春發行

花洛書肆

栢仙堂

